

1 9 9 8

授業概要

【シラバス】

専攻科

〈保育専攻・福祉専攻〉

白梅学園短期大学

SHIRAZOME GAKUEN COLLEGE

目次（専攻科）

専攻科保育専攻

幼児教育特論Ⅰ	3
幼児教育特論Ⅱ	4
幼児教育特論Ⅲ	5
保育内容研究Ⅰ	6
保育内容研究Ⅱ	7
保育内容研究Ⅲ	8
保育内容研究Ⅳ	9
音楽研究	10
図画工作研究	11
現代保育特論Ⅰ	12
現代保育特論Ⅱ	13
保育健康学特論	14
乳児保育特論	15
障害児保育特論	16
保育・教育相談研究	17
専攻科実習特演Ⅰ	18
専攻科実習Ⅰ	19
総合演習研究Ⅰ	20
修了研究演習	21

専攻科福祉専攻

◇介護福祉専門科目

老人福祉論	25
リハビリテーション論	26
老人・障害者の心理	27
家政学概論・実習	29
介護概論	32
介護技術	33
障害形態別介護技術（老人）	34
障害形態別介護技術（聴覚障害）	35

障害形態別介護技術 （肢体不自由・内部障害）	36
障害形態別介護技術（視覚障害）	37
実習指導	38
介護実習	39
介護福祉特講（レクリエーションワーク）	40
介護福祉特講（老年医学）	41

◇社会福祉関係科目

老人福祉特論	42
社会福祉制度政策論	43
障害福祉論	44
社会福祉援助方法論	45

◇演習科目

修了研究演習	46
--------	-------	----

保 育 専 攻

【授業科目名】 幼児教育特論Ⅰ	【担当者】 岡本富郎
【開講期】 1年 前期	
【授業目標】 ○保育の在り方を、保育構造という視点で知ること。 ○自分の頭で考え、自分の言葉でしゃべること。	
【テキスト・参考書】 ①「For the child—保育者養成を考える—」 ②「保育研究」（雑誌）の論文	
授 業 計 画	
<p>保育の現状を知り、子どもにとって保育とは何なのかという哲学的な内容をとりあげて話す。「子どもと人生」「子どもの幸福」「子どもの存在理由」などである。</p> <p>そして、これらの内容と、保育自体の在り方を、「保育構造」という視点で関連づけて考えたい。その際に、構造とは何か、どのような構造論があるのかということを紹介し、分析する。</p> <p>討論と、小レポートを課すので了解しておかれない。</p>	
【評価方法】 レポート	

【授業科目名】 幼児教育特論Ⅱ	【担当者】 黒田 瑛
【開講期】 1 年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>わが国幼児教育の今日の課題を明らかにし、保育の歴史と多様な保育理論に学び、これからの保育のありかたを考えることを目標とする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>資料を用意し、随時参考書を紹介する</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>近々のうちに幼稚園教育要領が改正され、保育所保育指針の改訂もそれにつづくものと思われる。授業ではわが国の保育の歴史をたどり、今日の子どもがおかれた状況と幼児教育の課題を明らかにする。</p> <p>この課題と取り組むこれからの保育を考えるため、フレーベル、デューイ、モンテッソーリ、倉橋惣三などの理論に学び、あそび、仕事、経験、環境等の視点から保育における「子ども中心」の思想について理解を深めることを目指す。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>レポートおよび授業への出席と参加</p>	

【授業科目名】 幼児教育特論Ⅲ	【担当者】 小川博久
【開講期】 1 年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>保育という営みの本質と構造を、具体的事例にそって考察する。 保育という援助のあり方を考える。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>保育原理 2001 (同文書院)</p>	
授 業 計 画	
<p>幼児教育の本質について学んだ後、保育の指導の原則が援助であることを示し、幼児理解の仕方を学びながら援助のあり方について事例を通して学び、保育者の援助のあり方についてイメージをうかべながら考えていきたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 幼児教育の本質 ② 幼児の遊びとは何か ③ 遊びの指導の本質としての援助 ④ 事例を通して援助のケースを学ぶ ⑤ 援助の身体的なかかわり方 	
<p>【評価方法】</p> <p>レポート評価</p>	

【授業科目名】 保育内容研究 I	【担当者】 若松美恵子
【開講期】 1 年 前期	
<p>【授業目標】 乳幼児の身体運動を中心とした表現の発達および幼児の身体表現力の発達をふまえて、保育者は、子どもとの関わりの中で、子どもたちが、①感受性が豊かになる、②豊かに表現する、③表現を楽しむにはどのような援助、働きかけをすべきか、その指導方法について学ぶ。特に言葉がけについて演習形式で詳しく学ぶ。</p>	
【テキスト・参考書】	
授 業 計 画	
<p>(1) 総論</p> <ul style="list-style-type: none"> ①身体表現やリズムカルに身体を動かす等の幼児教育における現状と問題点 ②保育現場でみられる身体表現 ③身体表現の教育的意義 ④指導の実践例 <p>(2) 身体表現力の発達</p> <ul style="list-style-type: none"> ①乳幼児の発達にみられる身体表現 ②身体表現活動にみられる身体表現力の発達（3歳児、4歳児、5歳児） <p>(3) 身体表現の指導法</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ねらい ②援助の基本的姿勢 ③援助の方法 ④言葉がけ <p>(4) 身体表現の援助における言葉がけの研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ①指導実践例における言葉がけの分析と整理 ②言葉がけのありかた 	
<p>【評価方法】 講義の一部、対話形式や演習形式を進める中、積極的な発言を期待する。これらを平常点とし、さらに最後に与えた課題について各自の考えを記述してもらう。</p>	

【授業科目名】 保育内容研究II	【担当者】 近藤正樹
------------------	------------

【開講期】 1 年 前期

【授業目標】
 幼児教育法の各論としての“認識”学として、哲学・生理学・心理学・教育学を通じた学際教科を収めている。私流に言えば「input教育法の概論——自然現象の認識を育てるために」ということになる。研究法の一助にもなるよう配慮してある。

【テキスト・参考書】
 テキスト： 中沢和子著 「新版 幼児の科学教育」 国土社 刊
 参考書： 時実利彦著 「目で見る脳」
 水野寿彦著 「幼児の生活と自然」 教学研究社 刊

授 業 計 画

幼児教育法各論をどう考えるか

1. 正しい認識を豊かに身につける教育法 (inputの教育について)
2. 自分自身の知的財産を豊かに、効果的に表現できるようにする教育法 (outputの教育について)
3. 望ましい生活習慣を身につけ、おとなの社会に適応させる教育法 (adaptationの教育について)
4. 自然認識・社会認識・文化認識 というサブ・ジャンルの特質

“認識”とは何か

1. 教育学における terminology (専門用語と生活用語)
2. 用語の正しい理解のしかた (外国語との比較のすすめ)

“認識”を理解するための生理学 ① 神経細胞

1. 環境のリセプター
2. 感覚器の構造と機能
3. 神経細胞の構造と機能

“認識”を理解するための生理学 ② 神経系 と 脳

4. 神経系と神経節・脳の関係
5. 脳の構造と機能の分化
6. 生理学的原因による認識不全の現象

“認識”を理解するための心理学

<ol style="list-style-type: none"> 1. レンズ眼による倒立像を正立像とみなす適応 2. 残像 と 編集 3. 錯覚と先入観 	<ol style="list-style-type: none"> 4. イメージと記憶のファイリング 5. 夢とファールと発想 6. “認識”のモデルとコンピュータ
--	---

“思考”を考えるモデル

<ol style="list-style-type: none"> 1. 中沢和子著 「新版 幼児の科学教育」の分析 2. 中沢和子氏の “思考のプロセス”のモデル 3. “思考”モデルとコンピュータのアナロジー 	<ol style="list-style-type: none"> 4. コンピュータ理論の現状と未来 5. “認識”と“思考”の教育学的統括 6. “知・情・意”の認識学的説明
--	---

【評価方法】
 試験 (題は公表しておく) を行う。

【授業科目名】 保育内容研究Ⅲ

【担当者】 佐々加代子

【開講期】 1 年 後期

【授業目標】

乳幼児（障害児を含む）の言語の生活化の質にねらいをおく保育の追及をする。話しことば、書きことばの発達過程、思考活動や発想・想像・創造活動までを見通した内容の検討をする。

【テキスト・参考書】

随時提供する。

授 業 計 画

言語の生活化は言語習得とその運用にある。言語習得は話しことばと書きことば、高次元の言語能力である思考活動や想像、その具体的表現としてのことばの産生や創作表現までを含んでみていくこととなる。

1. 乳幼児の言語習得過程について概観する。
言語習得過程の第一段階である、コミュニケーション関係の成立過程についての学習をする。習得過程において、重要な役割を果たして行く信号行動系とその機能について体験的に習得していく。
乳幼児の生活と遊びの場面のv t r, 母親の育児日誌、保育の観察記録、保育園や幼稚園の見学観察からの検討をする。
2. 障害児の言語習得過程について概観する。
“障害”の見方
歪みの問題とその要因についての検討
3. 保育者自身の言語の生活化の実態についての検討
保育活動において、その質を高めていくには、保育を担う保育者の質が問われることになる。乳幼児の言語の生活化の担い手ともなる保育者自身の言語の生活化の状況（受講生の現況について）をコミュニケーション能力と関連する、人間関係（コミュニケーション）能力について評価をする。その上でその保育者の質への道筋についての検討をする。音声表現も含めてみる。
4. いわゆる言語教材；絵本、紙芝居、パネルシアター、ことばあそび、ペープサート、素話、などの素材とその特徴及びその選択法についての検討をする。
5. 対象児の年齢区分別の言語の生活化；かかわりかたの技法
6. 創作作品とその表現法；年齢区分なく使えるもの
7. 保育場面での表現法；音声を含むかかわりかた

【評価方法】

出席状況と平常点、演習結果のまとめのレポートとレポートで行う。

【授業科目名】 保育内容研究Ⅳ	【担当者】 民秋 言
【開講期】 1 年 後期	
<p>【授業目標】 保育所保育指針や幼稚園教育要領では「環境を通して行う保育」が特筆されており、そのなかで環境としての人間関係は重要な位置を占める。また、保育指針や教育要領では領域として「人間関係」がとりあげられている。本講では、子どもが育つ環境としての「人間関係」と、育ちのねらいの内容としての「人間関係」の二つを一つのものとして捉え、とくに集団生活に注目しながら考えていく。社会的存在としての人間・子どもの生活拠点としての人間関係のあり様を検討する</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>講義中に適宜指示する</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの育ちにとって必要な「人間関係」とは何か 2. 人と人が関わりをもつ意味 3. 集団生活のなかでの子どもの生活 4. 集団生活の展開過程 5. 集団生活を支える社会規範 6. 集団生活を支える文化 7. 子どもの集団生活と保育者の役割 8. 人間関係の発展と保育カリキュラム 	
<p>【評価方法】</p> <p>レポート並びに平常点</p>	

[授業科目名] 音楽研究	[担当者] 秋山治子												
[開講期] 1 年 前期													
<p>[授業目標]</p> <p>幼児の音楽教育または音楽表現領域の指導と援助の仕方全般について学ぶ。本授業では主としてこれまでに学んできた音楽表現科目の知識や理念を基礎として、ひとつの易しいテーマから奥行きのある展開と洞察へと導いてゆくことを目標にする。その試みとして、明治期から現代までの代表的な幼児歌曲を授業の度に研究教材として1曲とりあげて知識的に学んだり（歴史、分析、調査など）実践的に（遊びを考えたり作ったりする、歌う、年齢に見合った楽器付けや指導方法を皆で考える、等）研究を進めてゆく予定である。</p>													
<p>[テキスト・参考書]</p> <p>必要な楽譜や書籍は授業の中で紹介する</p>													
<p>授業計画</p>													
<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">1 蝶々（明治初期、旋律は外国曲）</td> <td style="width: 50%;">7 靴が鳴る（大正8年編、弘田竜太郎曲）</td> </tr> <tr> <td>2 むすんでひらいて（同上、同上）</td> <td>8 しゃぼん玉（大正9年編 中山晋平曲）</td> </tr> <tr> <td>3 お正月（明治34年 掲載、滝廉太郎曲）</td> <td>9 夕焼小焼（大正12年編、草川信曲）</td> </tr> <tr> <td>4 かたつむり（明治44年 掲載、文部省唱歌）</td> <td>10 うれしいひな祭り（昭和10年作曲 河村光陽曲）</td> </tr> <tr> <td>5 雪（同上、文部省唱歌）</td> <td>11 汽車ポッポ（s13年「兵隊さんの汽車」として発表、草川 曲）</td> </tr> <tr> <td>6 どんぐりころころ（大正10年 掲載 梁田貞曲）</td> <td>12 たきび（S16年発表、渡辺茂曲）</td> </tr> </table>		1 蝶々（明治初期、旋律は外国曲）	7 靴が鳴る（大正8年編、弘田竜太郎曲）	2 むすんでひらいて（同上、同上）	8 しゃぼん玉（大正9年編 中山晋平曲）	3 お正月（明治34年 掲載、滝廉太郎曲）	9 夕焼小焼（大正12年編、草川信曲）	4 かたつむり（明治44年 掲載、文部省唱歌）	10 うれしいひな祭り（昭和10年作曲 河村光陽曲）	5 雪（同上、文部省唱歌）	11 汽車ポッポ（s13年「兵隊さんの汽車」として発表、草川 曲）	6 どんぐりころころ（大正10年 掲載 梁田貞曲）	12 たきび（S16年発表、渡辺茂曲）
1 蝶々（明治初期、旋律は外国曲）	7 靴が鳴る（大正8年編、弘田竜太郎曲）												
2 むすんでひらいて（同上、同上）	8 しゃぼん玉（大正9年編 中山晋平曲）												
3 お正月（明治34年 掲載、滝廉太郎曲）	9 夕焼小焼（大正12年編、草川信曲）												
4 かたつむり（明治44年 掲載、文部省唱歌）	10 うれしいひな祭り（昭和10年作曲 河村光陽曲）												
5 雪（同上、文部省唱歌）	11 汽車ポッポ（s13年「兵隊さんの汽車」として発表、草川 曲）												
6 どんぐりころころ（大正10年 掲載 梁田貞曲）	12 たきび（S16年発表、渡辺茂曲）												
<p>[評価方法]</p> <p>1 授業に対する取組み方、出席 2 レポート</p>													

【授業科目名】 図画工作研究	【担当者】 花原 幹夫
【開講期】 1 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>子どもの造形表現活動の援助について、具体的な実践事例をもとにして学ぶ。 特に、豊かな造形表現を実現するための環境づくりと援助指導のあり方について考察する。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>特に使用しない</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>1. 子どもの造形表現活動を豊かにしていくための環境づくりについて</p> <p>2. 子どもの造形表現活動を保育者として、どう受けとめ、どう働きかけるか、について</p> <p>3. 以上の視点について、実際の保育現場での実践事例を検討素材にして、援助指導のあり方について分析考察していく。</p> <p>(保育現場からのVTR、作品などの具体的な実践資料を活用していく)</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>授業の中で、レポート報告や実践検討を行なう</p>	

【授業科目名】 現代保育特論 I	【担当者】 民秋 言
【開講期】 1 年 前期	
<p>【授業目標】 都市化、核家族化・少子化、女性（とくに母親）の社会進出の増大 価値観の多様化など社会のはげしい動きのなかで保育ニーズは多様化 し、さまざまな保育のあり方が求められている。さらに、児童福祉法 の改正をもととする制度変革期にあつて、保育行政からの課題も少な くない。家族や地域社会の保育ニーズにどう応えるか、そのための専 門性をいかに習得していくか、主として保育園に例をとりつつも幼稚 園にも共通のテーマとして捉えていく。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>講義中に適宜指示する</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもをとりまく社会の動き 2. 保育をとりまく社会の動き (1)都市化 3. 保育をとりまく社会の動き (2)核家族化 4. 保育をとりまく社会の動き (3)少子化 5. 保育をとりまく社会の動き (4)女性の社会進出の増大 6. 保育をとりまく社会の動き (5)価値観の多様化 7. 保育制度の改変と保育園 (1)保育行政の変化 8. 保育制度の改変と保育園 (2)保育園機能の変化 	
<p>【評価方法】</p> <p>レポート並びに平常点</p>	

【授業科目名】 現代保育特論Ⅱ	【担当者】 鈴木佐喜子
【開講期】 1 年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>「現代保育特論Ⅰ」において明らかにされた多様な保育ニーズに対応する保育のあり方、専門性について、より実践的に学習し、今日の保育実践を考える。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>授業時に適宜指示する。</p>	
授 業 計 画	
<p>以下の5つの事項について、これらの取り組みを行っている施設や保育所、幼稚園等の実践や保育論を取り上げ、検討する中で、その内容を知り、それぞれの問題の特質、大切な視点、課題についての理解を深める。</p> <p>その際、学生個々人が課題を持ち、現代の親や子どもの育ちや現代の保育のあり方について、自分なりの視点で捉え直していけるよう進めるつもりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの育ちと求められる保育実践 2. 働く母親への支援 3. 家族への支援 4. 子育てに対する支援 5. 親と保育者の関係 	
<p>【評価方法】 ①平常授業でのレポート、討議への参加状況 ②学期末レポート</p>	

【授業科目名】 保育健康学特論	【担当者】 村田 務
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>1、日常の保育活動の中で遭遇するさまざまな子どもの健康問題や保健活動について、具体的に理解する。</p> <p>2、子どもの健康問題や保健活動に対する見方、考え方について理解を深める。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>参考書（月刊誌）</p> <p>毛利子来・山田真編集代表：ちいさい・おおきい・よわい・つよい、ジャパンマシニスト社</p>	
授 業 計 画	
<p>保育健康学は、保育における諸問題を健康学（健康の維持増進と疾病の予防）的に検討することを目的とする。その内容領域は、大きく分けて、子どもの保健管理（主体管理、環境管理、生活行動管理）、保健教育、保育者の健康管理の3領域からなる。</p> <p>今日、健康対策において「ヘルスプロモーション」という概念が強調され、仲間とともに自らのからだや健康をまもり育てることのできる人間、健康的な環境と状況を創りだしていける人間が求められている。そこで、健康問題を検討するためのアプローチは、保育（教育）的、行動科学的な手法を重視する。</p> <p>主なテーマ 予防接種はどれを、どう受けますか 健康診断で何が分かるの 病気のみかた、医者へのかかりかた 農薬や添加物「少し」なら大丈夫？ 保健室ってどんなところ？ おやつ、お菓子はむずかしい 子どもたちに何を食べさせたらいい？ けが、誤飲、転落 育児に除菌は必要ないの 知りたい食中毒と伝染病 肥満は病気のもと？ 知りたいインフルエンザ</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>レポート、学習に対する意欲と努力</p>	

【授業科目名】 乳児保育特論	【担当者】 鈴木佐喜子
【開講期】 1 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>乳児保育において、今日、焦点となっている理論的、実践的問題を取り上げ、検討するなかで乳児保育についての理解を深める。また、子どもや親への援助のあり方や保育実践について考える。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>授業時に適宜指示する。</p>	
授 業 計 画	
<p>概ね以下の内容で授業を行う予定である。</p> <p>1. 乳児保育をめぐる状況と問題点</p> <p>①乳児保育のニーズの増大と保育所</p> <p>②乳児保育における長時間保育問題</p> <p>③今日の子育てと乳児保育</p> <p>2. 乳児保育実践の検討</p> <p>— 内容・方法に影響を与えている理論や実践のあり方を考える —</p> <p>①乳児保育と母子関係論、アタッチメント論</p> <p>②子ども同士の関係の位置づけ</p> <p>③子どもの発達、生活、あそびをめぐる問題</p>	
<p>【評価方法】 ①平常授業でのレポート、討議への参加状況</p> <p>②学期末レポート</p>	

【授業科目名】 障害児保育特論	【担当者】 堀江 まゆみ
【開講期】 1年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>健全児と障害児がともに生活することの意義を理解するとともに統合保育における現状と課題を明らかにし、実践に関わる総合的な視点と子ども理解・援助の視点について実践的な追求をめざす。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>授業のなかで適宜提示する。</p>	
授 業 計 画	
<p>統合保育のあり方および現在の幼稚園・保育所における障害児の受け入れ、クラス集団のあり方など、具体的な問題を通して考える。理念としてはノーマライゼーション思想に基づいた保育観の検討、制度では実施の現状と課題の把握、実践では発達保障の問題と社会参加の視点から子ども理解と援助法について、さらに地域の療育ネットワークと保育所の役割や家族への地域支援からも学習する。</p> <p>前半は、VTR観察、実践報告や研究報告を取り入れながら、実践課題を明確にしそれに対する実践的アプローチについても具体的に検討する。</p> <p>後半には、統合保育を実践している保育所、幼稚園行われている実践を実際に（あるいはVTR）観察し、観察記録をまとめながら前期に学んだ視点にそって分析し討論を進める。できる限り直接体験を通して実践性をともなった学習としたい。</p> <p>およそ、以下の項目にそって進める。</p> <p><前半>① ノーマライゼーションの思想とインテグレーションの理解 ② 障害の理解—知的障害、自閉症、言語障害、重複障害など ③ 我が国における制度・政策の展開と現状 ④ 実践体制の要件—受け入れ、チームワーク、園内の条件整備など ⑤ 実践的課題の存在—実践報告、研究報告にみる課題 ⑥ 子どもの理解と援助1—個人的援助、発達援助のあり方 ⑦ 子どもの理解と援助2—集団的援助、健全児間関係のあり方 ⑧ 家族への支援、地域・関連施設機関との連携</p> <p><後半>① 統合保育における障害児の発達評価と発達課題の分析 —1 保育所あるいはVTR観察による ② —2 観察記録の報告と討論 ③ 統合保育における健全児と障害児の相互交渉の分析 —1 保育所あるいはVTR観察による ④ —2 観察記録の報告と討論 ⑤ 統合保育における今後の課題について</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>① 平常授業の中で実践・研究文献を報告し、適宜討論を行う。 ② 統合保育実践の観察や分析のレポートをまとめる。</p>	

「授業科目名」 保育・教育相談研究	「担当者」 村田保太郎
「開講期」 1年 後期	
<p>「授業目標」 保護者の育児相談に対応出来る、面接技法及び子どもの育児・保育臨床について基本的な知識・理解・方法を実践的・实际的に学ぶ。</p>	
<p>「テキスト・参考書」 Q & A 子どもの心の健康相談室（0歳から6歳） 平凡社</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1、児童福祉法の改正によって、新たに保育園において保護者に育児相談並びに助言することが、努力義務として課せられた。また、幼稚園での預かり保育等も行われるようになる等、保育・教育相談が、重要になってきた。 2、保育・教育相談の、現代的意義について理解を深める。 3、子育て支援活動の実態と、組織・方法について理解を深める。 4、子育て支援活動の、実際を通してその現代的意義について学ぶ。 5、相談の対象となる子どもの行動の原因・背景・生育などについて、臨床的にとらえることや、かかわることが出来るように学ぶ。 6、ロールプレイングなどを通して、相談の技法や対人理解を学ぶ。 7、教育相談やカウンセリングについて理解を深め、対人関係理解を深める。 	
<p>「評価方法」 1、ロールプレイングの、実際場面による評価</p> <p style="padding-left: 40px;">2、ケース・スタディの、実際場面による評価</p> <p style="padding-left: 40px;">3、進行状況に応じて、小レポートを出す</p>	

【授業科目名】 専攻科実習特演Ⅰ	【担当者】 岡本富郎
【開講期】 1 年 後 期	
【授業目標】 (1) 子どもについて知ること。 (2) 保育について知ること。 (3) 実践について知ること。 (4) 実習のあり方を探ること。	
【テキスト・参考書】	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習体験を話し合い分析し合う。 ① 2. 同 上 ② 3. 具体的な実習での事例を揚げ、テーマごとに発表し、交流し、分析し合う。 (駄、あそび、集団、生活、性格、親子関係など) 4. 実習における各自の実習テーマについての発表と交流。① 5. 同 上 ② 6. 実習終了後の実習分析。① 7. 同 上 ② <p>上記のことを、受講生と共に楽しく、有意義に学び合いたい。討論と、感想文、小レポートを課すので、了解しておいてほしい。</p>	
【評価方法】 レポート・平常点	

【授業科目名】 専攻科実習 I	【担当者】 岡本富郎
【開講期】 1年後期	
【授業目標】 自分の実習テーマに基づき、実践者としての力量を身につける。	
【テキスト・参考書】	
授 業 計 画	
<ul style="list-style-type: none"> ・各自、実習を主体的に行うことにより、より意義のある実習を行う。 ・そのために、実習計画を自主的にたてること。 (実習自体のあり方については「実習特別演習Ⅰ」で扱う。) 	
【評価方法】 実習評価票・実習日誌・レポート	

【授業科目名】 総合演習研究Ⅰ	【担当者】 民秋 言 ・ 近藤正樹
【開講期】 1 年 前期	
<p>【授業目標】 「総合演習研究Ⅰ」は「修了研究演習」に課されている「論文」作成にあたっての導入部に相当する。15名の学生を対象として、社会科学と自然科学との専攻領域から保育者養成並びに保育問題研究に取り組んできた担当者2人が、保育研究の総合的かつ基礎的方法論を演習的に指導する。とくに学生各自の問題意識を確かなものにすると共にその研究方法を先達の研究を示しながら、討論形式を導入しながら講ずる。この段階での論文作成も課す。</p>	
【テキスト・参考書】	
授 業 計 画	
<p style="text-align: center;">1. 「研究する」とはどういうことか</p> <p style="text-align: center;">2. 保育者に「研究」が必要な意味(わけ)</p> <p style="text-align: center;">3. 保育研究の手順</p> <p style="text-align: center;">①テーマをみつける</p> <p style="text-align: center;">②問題意識をもつ</p> <p style="text-align: center;">③文献を読む</p> <p style="text-align: center;">④文献を整理する</p> <p style="text-align: center;">⑤調査の方法</p> <p style="text-align: center;">⑥その他データの収集方法</p> <p style="text-align: center;">⑦収集データの処理</p> <p style="text-align: center;">⑧論文を書く</p> <p style="text-align: center;">⑨課題をみつける</p> <p style="text-align: center;">4. 保育実践に保育研究成果を生かす</p>	
<p>【評価方法】 レポート並びに平常点</p>	

【授業科目名】 修了研究演習	【担当者】 専任教員
【開講期】 1 年 後期 ・ 2 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>保育のなかで問題とされるテーマを各自選び、その課題解明を試み、論文にまとめる。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>各担当教員の指示による。</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 総合演習研究Ⅰの学習を踏まえ、学生がテーマを決める。 2. テーマによって、担当教員を決定する 3. 担当教員の指導を受けながら、研究作業を進める。 4. 修了研究論文をまとめ、提出する。 	
<p>【評価方法】</p> <p>授業への参加状況および修了研究論文により評価する</p>	

福 祉 専 攻

【授業科目】 老人福祉論	【担当者】 佐野 英司
【開講期】 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>老人福祉についての基本的視点をしっかり身につけることを授業目標に進め、後期の「老人福祉特論」授業に結びつけていきます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 老人福祉の社会的背景について学びます。 2. 老人福祉の理念・目的を学びます。 3. 老人のおかれている状況及び生活実態について学びます。 4. 現行および今後の老人福祉、老人保健の政策、制度について学びます。 また、老人福祉、老人保健サービスの体系、事業内容及び活用手続きなど、具体的実践活動について学びます。 5. 老人福祉実践について具体的事例をもとに学び、ケアの在り方について考えます。 	
<p>【参考図書】</p> <p>「すべての人にゆたかな老いを」 (文理閣)</p> <p>「老いを生ききる」 (法蔵館・田邊順一著)</p> <p>その他、授業中に適宜紹介します。また、参考論文はコピーして授業で使います。</p>	
<p>【授業の進め方】</p> <p>授業は、上記授業目標を具体化し、プリントを中心に進めます。また、ビデオも活用します</p>	
<p>【評価の方法】</p> <p>授業は、定時に始めます。</p> <p>最初の10分間で、その日の授業について考えることをミニレポートで書き、それで出席確認をします。授業の合間になるべく小グループによる話し合いを取り入れ、最後の10分間で自分自身の授業のまとめレポートを書きます。</p> <p>また、定期試験は、レポートとします。授業は最初から聞いていないと理解が不十分です。したがって、遅刻は厳しくチェックします。</p> <p>評価は、平常点（遅刻、欠席、ミニレポート提出状況等）30%、前期試験（レポート）70%で、その総合点で評価します。</p>	

【授業科目名】 リハビリテーション論	【担当者】 菊池恵美子
【開講期】 後期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーションの理念と基本原則を理解する。 2. 障害の分類とその意味、必要な援助法を理解する。 3. リハビリテーションに関わる専門職種の役割と機能を理解する。 4. 対象者の疾患特性に応じた介護の知識と技法を学ぶ。 5. 介護に必要な福祉用具についてその種類と適応を学ぶ。 	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>教科書：三訂介護福祉士養成講座4 リハビリテーション論 中央法規1997 参考書：松村 秩編，生活リハビリテーションマニュアル，中央法規，1992</p>	
授 業 計 画	
<p>授業目標に対応した授業計画を以下に示す（講義は2コマ連続）。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入（リハビリテーションの意味・歴史・障害とは？） 2. リハビリテーションの体系と方法（関連機関・関連職種の機能） 3. リハビリテーションの分野で使われている評価法 4. 日常生活活動と介助法（実技） 5. 障害の診かた（片まひ・パーキンソン他） 6. 高齢者の心身機能の特性と体力評価（実技） 7. 介護に必要な福祉用具の種類と使用方法 8. まとめとテスト <p style="text-align: center;">毎回生活リハビリテーションと介護に関するVTRを使用する</p>	
<p>【評価方法】</p> <p style="padding-left: 40px;">評価：筆記試験100% 出席：学則に従う</p>	

【授業科目名】 老人・障害者の心理	【担当者】 高山 緑
【開講期】 後期 (半期：老人の心理)	
<p>【授業目標】</p> <p>本講義のねらいは老年期の心理を理解することである。年齢をとれば誰にでも起きる正常な加齢と、病気などが原因で起きる病的な加齢とを区別して、現実におこっている加齢(老化)を偏見なく理解できるようにする。また、生涯発達の様式の中で、老年期の発達を学んでゆく。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>下仲順子(編) 老年心理学 培風館 西村純一(著) 成人発達の心理学 酒井書店</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1 老年心理学の歴史・高齢化社会のもたらしたもの 高齢者の心理を学ぶにあたり、老化や老年期などの概念と理論、老年心理学の歴史、高齢化社会の現状などについて学ぶ。 2 高齢期の疾患と身体・生理機能の老化 高齢期におこりやすい身体疾患、視覚・聴覚・味覚・嗅覚・触覚などの感覚機能の発達と老化、および運動機能の老化などについて学ぶ。 3 高齢者の記憶 記憶の加齢変化の特徴について学び、記憶の低下による失敗を少なくするにはどうしたらよいか、考える。 4 知能と加齢 生涯を通じて知能はどのように発達するのか。これまでの知能研究の成果をもとに、生涯発達の視点にたつて知能と加齢との関係を学ぶ。また、近年、注目をあつめている英知、熟達化(エキスパートイズ)についても学んでゆく。 5 人格と加齢・高齢期の適応 人格が成人期以降、どのような発達・変化をするのか生涯発達の視点にたつて理解する。また、これまで高齢になると起こりやすいといわれていた人格特徴をとりあげ、それらの特徴についての偏見や誤解を研究方法など様々な点から理解していく。 6 死と死にゆく過程 死にゆくプロセスについて学び、人間として尊厳に満ちた死を迎えるにはどうしたらよいか、また残された人々のこころをどのように理解したらよいかについて考える。 7 高齢期の家族と対人関係 高齢期の家族関係、対人関係について、モデルや実証研究の成果をふまえながら、理解していく。 	
<p>【評価方法】</p> <p>講義への取り組み方・試験等から総合的に評価する</p>	

【授業科目名】 老人・障害者の心理	【担当者】 堀江 まゆみ
【開講期】 後期（半期：障害者の心理）	
【授業目標】 1. 障害者の心理特性を理解し、コミュニケーションのあり方など適切な援助の姿勢を学ぶ。 2. 障害者が”よりよい人生を生きる”とはなにかについて、権利擁護の視点から考える。	
【テキスト・参考書】 授業の中で適宜、紹介する	
授 業 計 画	
<p>この授業では、障害者の心理特性や障害への理解を深めていくが、特に、身体障害者や重度障害者に対する援助の実際について、事例を交えながら進める。</p> <p>さらに、障害種別を超え高齢者問題を含めた「人権擁護」の問題にも触れ、今後の福祉援助者としての課題について考える。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 障害の概念と障害者の”人生”を考える <ol style="list-style-type: none"> ① 生活・社会における”障害”とは ② ライフ・コースと自己実現とは ③ 障害者援助におけるアドヴォケイトとは 2. ”コミュニケーションの取りにくい”障害者への援助を考える <ol style="list-style-type: none"> ① 身体障害者とコミュニケーション・エイドとは ② 重症心身障害者の要求・意志表出とは ③ 援助におけるコミュニケーション保障と障害者の自己決定権 3. 障害者の人生を援助するとは何かについて考える * 事例を交えたグループディスカッションで深めていく。 	
【評価方法】 試験・授業への取り組み姿勢から、総合的に評価する	

【授業科目名】 家政学概論・実習 (家庭生活の経営管理・住生活)	【担当者】 佐藤美千子
【開講期】 前期	
【授業目標】 家庭生活（生命および人間活動力再生産の営み）の経営管理および住生活領域についての基礎的事項を学び、家事・介護援助のあり方と社会的役割を考える。	
【テキスト・参考書】 テキスト 宮崎礼子編 『家政学概論』 誠信書房	
授 業 計 画	
<p>日本の高齢化は、生活のし方や価値観の大きな変化と重なって進展している。したがって、家事・介護援助に携わる者は、家族の多様なあり方への理解と、生活の様式や家族観が世代によって違いがあることへの洞察力をもつことが、きわめて重要となる。</p> <p>そこで、授業では、家庭生活と住環境について、社会的視点と生活史的視点をもって把握できるように配慮し、家事・介護援助者としての実践力を培う一助としたい。</p> <p>授業で取り上げる項目は、おおよそ次のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 家族・家庭生活の現状 2. 生活周期・家族周期の変化と生活設計の課題 3. 生活時間、家事・介護労働、家事・介護援助 4. 経済生活、高齢者・障害者と消費者問題 5. 住宅の要件 6. 住宅改善の視点と効果 7. 高齢者・障害者と住政策 <p>なお、実習では、生活時間調査や住宅の安全チェックなどを行なう。</p>	
【評価方法】 レポート 平常点	

【授業科目名】 家政学概論・実習（衣生活）	【担当者】 山本良子
【開講期】 前期	
【授業目標】 生活基盤をなす、家政学の概要を衣生活の分野について、必要な基礎知識を概説し、介護者として高齢者や障害者の衣料品について実践の場に役立てられるように問題点を考え、実習では、衣服の調整ならびに管理に必要な実際を理解することを目標とする。	
【テキスト・参考書】 テキスト：中島満喜子・駒津君代・土橋とき子共著 寮母・ヘルパーの家政学①被服（全国社会福祉協議会） 参考書：大谷陽子編著 家政学実習 建帛社	
授 業 計 画	
<p>衣服生活について、下記の項目について概説する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 衣服の役割と機能、 2) 衣服と保健衛生、 衣服気候、体温調節、環境と衣服、汚れと衣服、 3) 衣服素材の種類と消費性能、 4) 衣服の管理、 5) 高齢者、障害者の衣料品について、 <p>以上をもとに特に高齢者、障害者の最適衣料品のありかたについて考える。</p> <p>実習では、素材の簡単な鑑別の仕方、取り扱い方法、衣服の縫製の基礎と応用について行う。</p>	
【評価方法】 レポート・平常点	

【授業科目名】 家政学概論・家政学実習（食生活）	【担当者】 北 郁子
【開講期】 後 期	
<p>【授業目標】</p> <p>生命の中核である食について、人間性をはぐくみ、心身共に健康を保ち、豊かな人間の食とは何かを学び、人間の尊厳がそこなわれない食事のあり方を、つくり出せる基礎的知識と介護のあり方を深めることを目標とする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>「高齢者の食生活と栄養」 光生館 日本栄養・食糧学会監修</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>1, 生命現象を食からみると</p> <p>2, 高齢者の食生活</p> <p style="padding-left: 40px;">(1) 人間が食べるということ</p> <p style="padding-left: 40px;">(2) ライフサイクルと食生活</p> <p style="padding-left: 40px;">(3) 高齢者のための食生活指針から現在の高齢者の食生活を考える</p> <p>3, 高齢者の献立作成と実習</p> <p>4, 身体状態と調理及び介護のあり方（実習を含む）</p> <p>5, 健やかな高齢者のための食生活</p> <p>以上を理論と実習、ビデオ等を通じて理解を深める。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>筆記試験、及びレポート</p>	

【授業科目名】 介 護 概 論	【担当者】 大槻恵子
【開講期】 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>高齢者・障害者の生活の維持・向上をはかり、快適な生活を過ごすことが出来るように「介護」の理論と方法を学ぶ。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：最新介護福祉全書14「介護概論」メジカルフレンド社 参考図書：授業時に紹介する。</p>	
【授業計画】	
<p>【授業の方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 貸出・参考書・VTR・新聞報道の資料等を活用し、介護を必要とする人々の生活を理解する。 2. 学生同士の意見交換・討議を通じて、介護をめぐる社会状況に関する理解を深める。 <p>【授業の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護の目的、目標、原則、機能、範囲、専門性について学ぶ。 2. 高齢者・障害者の生活を理解する。 3. 健康維持の方法、障害・疾病に対するケア、終末期ケアを理解する。 4. 介護の原則、安全・安楽、日常生活の改善、残存機能の維持、QOLについて学ぶ。 5. 介護の技法を学ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・介護におけるコミュニケーション ・健康状態の観察技術 ・居住環境の整備 ・生活行動の援助技術 <ul style="list-style-type: none"> (呼吸・食事・排泄・身体の清潔・入浴・衣服の着脱・寝具の整備・移動・睡眠・有害環境からの保護) ・社会的行動の援助 <ul style="list-style-type: none"> (職業・教育・社会参加・生きがい・レクリエーション・宗教等) ・特殊な場面での介護技術 <ul style="list-style-type: none"> (医療・看護対応の介護：与薬・感染予防・救急処置事故対策・終末ケア) 6. 介護提供の場（施設・短期利用施設・在宅ケア） 7. 介護関係機関、関係職種との連携の理論と方法 8. 介護計画、介護評価の方法 9. 家族および利用者への介護指導の方法 10. 介護職員の安全、健康管理 	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">試験 レポート</p>	

【授業科目名】 介 護 技 術	【担当者】大槻恵子、眞保雅子
【開講期】 前 期 ・ 後 期	
<p>【授業目標】高齢者や障害者が自分らしく快適に生活でき、生活の可能性を広げられるように、様々な場面で直接援助する方法を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護を必要とする人々の生活の理解の方法を学ぶ。 2. 日常生活援助のための介護技術の内容と実施方法、評価方法を学ぶ。 3. 介護に必要な各種の福祉機器、住居設備機器等の知識と応用技術を学ぶ。 	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>検討中</p>	
授 業 計 画	
<p>介護概論と平行して介護技術の実習や演習を行なう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護の目的、目標、原則 2. 介護の過程 介護のニーズ、介護計画、実施・評価の方法 3. 介護のマナー 4. 介護に携わる者の健康管理 5. 観察 6. コミュニケーション 7. 介護技術（直接援助の方法） 生活行動（呼吸確保、食事、排泄、清潔、衣類・寝具の整備、運動、移動、睡眠、有害環境からの保護、介護機器の活用） 社会的行動（職業、生きがい、教育、宗教、レクリエーション、社会参加等） 8. 医療・看護とのかかわりと介護技術 （医療行為・看護行為と介護技術、与薬、感染予防、救急処置、事故対応、終末ケア） 9. 記録・事例検討の方法 介護職員、関係職種との連携の理論と方法 10. 利用者、家族（関係者）への介護指導の方法 	
<p>【評価方法】</p> <p>テスト・レポート及び実技試験</p>	

【授業科目名】 障害形態別介護技術（老人）	【担当者】 木下安子
【開講期】 前期	
【授業目標】 高齢者介護の基本理念と介護方法の基礎を理解する。	
【テキスト・参考書】 特に指定しないが、課題に応じて文献、マスコミの報道資料等を活用する	
授 業 計 画	
<p>授業方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の身体的・心理的・社会的特徴に関する書籍、資料を自主的に読み、その特徴・課題・介護方法を研究する。 2. 集団学習（ワークショップ）によって深め、互いの知見を交流する。 <p>学習のすすめかた</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者に関する文献（単行本）マスコミの報道（新聞・雑誌記事等）を、各自の興味にしたがって探索する その探索結果の紹介と見解を発表し、討論する。 — 問題発見 — 2. 明らかになった高齢者に関する課題を整理し、分野別にグループをつくり、内容を深める学習をし、その結果を発表、討論する。 — ワークショップ — 3. 各自がこの過程で学んだ内容を整理し、次に掲げるテーマでレポートをまとめる。 — レポート作成 — レポートテーマ 高齢者をめぐる諸環境についての分析し、高齢者の介護の課題とこれからの方向 	
【評価方法】 — レポート作成 — 評価は学習過程全体で行う	

【授業科目名】 障害形態別介護技術（聴覚障害）	【担当者】 貞廣邦彦
【開講期】 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>聴覚障害から派生する問題の中でも、とりわけ重要なコミュニケーション保障について理解することが必要であり、手話の表現力を養いたい。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>「わたしたちの手話（１）」全日本ろうあ連盟発行</p> <p>「手にことばを（初級用）」東京都聴覚障害者連盟発行</p>	
授 業 計 画	
<p>聴覚障害者の生活の中で、情報が果たす役割の重要性を認識するとともに、コミュニケーションの方法としての手話の社会的位置づけについての理解を深め、手話の表現技術を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> （１）ろう教育と手話の成り立ち （２）聴覚障害者の社会生活と手話の発想 （３）手話の基礎的表現と指文字 （４）生活場面での手話表現 （５）歌詞の手話表現 （６）問いかけと応答の表現 （７）手話の特徴と短文の表現 （８）聴覚障害者との手話演習 （９）日常会話の表現と読み取り （１０）手話通訳の基礎的練習 	
<p>【評価方法】</p> <p>授業への出席状態と筆記試験によって評価する。</p>	

【授業科目名】 障害形態別介護技術（肢体不自由・内部障害）	【担当者】 大槻恵子
【開講期】 前期	
【授業目標】 <p>身体障害（肢体不自由・内部障害）に関する知識を学び、障害の特性と身体障害者の生活条件に対応した介護技術を習得する。</p>	
【テキスト・参考書】 <p>テキスト：最新介護福祉全書16「障害形態別介護技術」メヂカルフレンド社 参考図書：授業時に紹介する。</p>	
<p style="text-align: center;">【授業計画】</p>	
【授業の方法】 <p>テキスト、参考図書、VTR等を活用し、身体障害（肢体不自由・内部障害）について理解を深める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 障害の概念・障害の形態・障害者介護のあり方を学ぶ。 2. 身体障害をもたらす原因疾患について、基礎知識を身につけ、介護の方法を学ぶ。 （内部障害、脳・神経系疾患、骨関節疾患、難病の特徴と介護の方法） 3. 障害を持つ人々の心理や行動様式を理解し、障害に応じた生活支援の方法を学ぶ。 4. 介護に必要な各種の生活用具・介護機器の知識と使用方法を習得する。 	
【評価方法】 <p style="text-align: center;">試験 レポート</p>	

【授業科目名】 障害形態別介護技術（視覚障害）

【担当者】 直居鉄

【開講期】

後期

【授業目標】 視覚障害に関する医学的知識と視覚障害者の実情について学習する。視覚障害の生活に関するビデオやアイマスクによる疑似体験によって具体的に理解する。介護技術として、歩行、移動の介護、視覚障害者としてのコミュニケーションに不可欠な点字の読み書き、文字の音訳（朗読）、代筆に関する知識技能も習得する。

【テキスト・参考書】

視覚障害者の介護技術。点字の本。

授 業 計 画

1. 視覚障害と関連医学の基礎知識。目の構造と働き
2. 視覚障害の原因となる病気
3. 残存感覚機能の特性と活用
4. 視覚障害者の実態。… 視覚障害者数、視力の程度と身体障害者福祉法による等級。視覚障害者の教育職業の現状。
5. 視覚障害者に対する福祉措置
6. 視覚障害者に対する言葉づかい。
7. 視覚障害者への歩き方の基礎知識
8. 視覚障害者の案内の仕方
9. 日常生活の介護
10. 情報障害の介護。… 日常生活に必要な文書の読み書き。点字の読み書きの基礎学習。

【評価方法】

学習態度、レポート

【授業科目名】 実習指導	【担当者】 眞保雅子・嶋田陽子
【開講期】 前期・後期	
【授業目標】 1. 介護実習を円滑に進めるために必要な知識・技術を修得する。 1) 介護の対象者、施設設備、施設職員についての全般的な理解 2) 記録の在り方(実習記録、個別援助計画に向けて) 2. 個別援助計画を立案・実践し、実践記録を発表する。	
【テキスト・参考書】	
授 業 計 画	
<p>【前期】</p> <p>1. 「実習指導」オリエンテーション</p> <p>①「実習指導」の授業形態</p> <p>②「介護実習」の意義とすすめ方</p> <p>2. 実習施設と利用者についての学習</p> <p>①特別養護老人ホームと高齢者</p> <p>②救護施設・身体障害者療護施設と様々な障害をもつ人</p> <p>3. I期実習オリエンテーション</p> <p>①I期実習の課題の理解</p> <p>②I期実習目標設定 (個別に実習前面接を実施)</p> <p>《I期実習》5/18～5/30</p> <p>4. I期実習反省会</p> <p>①I期実習で学んだ内容の整理 利用者の生活と日常生活援助 コミュニケーション技術(グループワーク、 自己評価、面接等を含む)</p> <p>②II期実習の課題との関連</p> <p>5. II期実習オリエンテーション</p> <p>①II期実習の課題の理解</p> <p>②実習記録の書き方</p> <p>③II期実習目標設定 (個別に実習前面接を実施)</p> <p>④夏期休業中の課題の確認</p> <p>《II期実習》9/7～9/19</p>	<p>【後期】</p> <p>1. II期実習反省会 利用者の状況把握と援助の実際 介護職員・施設のあり方</p> <p>2. III期実習オリエンテーション ① III期実習の課題の理解 ・個別援助計画とは ・チームの一員としての介護とは</p> <p>3. 個別援助計画 ①計画立案から実践まで ②事例から学ぶ ③評価</p> <p>4. III期実習オリエンテーション ② III期実習の目標設定 (個別に実習前面接を実施) 《III期実習》11/9～12/5</p> <p>5. III期実習の反省(個別指導)</p> <p>①個別援助計画の実践記録の完成</p> <p>②ケーススタディ発表会抄録の作成</p> <p>③記録の重要性 自分の記録から学ぶ</p> <p>④チームでの介護</p> <p>6. ケーススタディ発表会</p>
【評価方法】 平常点 実習記録(ケースレポートを含む)	

【授業科目名】 介護実習	【担当者】 大槻恵子・眞保雅子・嶋田陽子
【開講期】 前期・後期	
<p>【授業目標】 1. 介護実習を通して、介護の対象者とその「暮らし」の理解、施設設備や施設職員のあり方についての理解を深める。</p> <p>2. 学校で学んだ理論・技術を基礎として、利用者の状況に応じた介護ができる。</p> <p>3. 介護福祉士としての介護観を養う。</p>	
【テキスト・参考書】	
授 業 計 画	
<p>1. 介護実習は、48日間をⅢ期に分けて行われる。各期の実習目標は以下の通り。</p> <p>【Ⅰ期】（予定） 5月18日（月）～5月30日（土）</p> <p>目標・様々な障害を持ちながら施設で暮らしている居住者の、日々の暮らしの様子を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・居住者への日常生活援助がどのように行われているかを知る。 ・介護活動に部分参加し、基本的な日常生活援助に必要な介護技術を修得修得する。 <p>【Ⅱ期】（予定） 9月 7日（月）～9月19日（土）</p> <p>目標・居住者の施設利用までの経緯や現在の生活の様子を把握し、適切な生活援助とは何かを考える。Ⅲ期のケーススタディの準備もあわせて行なう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設内の他職種の業務内容を理解し、介護職員との連携の実際を学ぶ。 ・地域で暮らす高齢者の生活を支える様々なサービスを体験学習する。 <p>【Ⅲ期】（予定） 11月 9日（月）～12月5日（土）</p> <p>目標・居住者への援助を総合的に理解し、チームの一員として介護に参加する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「個別援助計画」を立案・実践し、自分の介護観の形成を目指す。 <p>特別養護老人ホーム1～2カ所、救護施設または身体障害者療護施設1カ所で実習する。学校から提示された施設以外では実習できない。（厚生省指定による）</p> <p>2. 介護実習の前後に「実習指導」が週1～2校時あり、実習の進め方の詳細は「実習指導」で解説し、学習する。</p>	
<p>【評価方法】 平常点 実習施設からの評価 実習記録（ケースレポートを含む）</p>	

【授業科目名】 介護福祉特講（リクリエーションワーク）	【担当者】 三木和子
【開講期】 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>介護サービス中における、レクリエーション援助の意義と目的を理解し、援助技術の習得を目指します。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト、「レクリエーション援助法」建帛社</p> <p>参考書、「福祉レクリエーション・実践マニュアル」中央法規</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. レクリエーションの概念 増大する余暇と一般的なレクリエーションの捉え方 2. 福祉分野におけるレクリエーション レクリエーション援助の意義と目的 3. 体験学習 その1. 基本的な対人援助技術 コミュニケーションの技法を中心に 4. レクリエーションの計画 5. 体験学習 その2. プログラムの展開と、実際の援助に おける留意点 6. レクリエーション援助者に求められること 	
<p>【評価方法】</p> <p>レポート</p>	

【授業科目名】 介護福祉特講（老年医学）	【担当者】 明渡陽子
【開講期】 前期	
【授業目標】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 老年医学全般の理解 2. 老年介護の現場での具体的に必要とされる基本技術の修得 3. 老年者の健康増進および疾病予防法 	
【テキスト・参考書】	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 1) 加齢による老化---老化の定義／老化の特徴／老化順序の学説 老化に影響を及ぼす要因／心身機能の老化の伴う変化 2) 老年病の特徴と疫学 3) 老化と疾患；代表的疾患の概要 A) 脳、神経系；高齢者脳血管障害の特徴 B) 心、血管系；高血圧、虚血性心疾患（無症候性心筋虚血を含む）、 不整脈、心不全 C) 呼吸器系；肺炎、肺結核、慢性閉塞性肺疾患、肺癌 D) 消化器系；高齢者の急性腹症、消化性潰瘍、消化管悪性腫瘍 E) 内分泌、代謝系；高脂血症、高齢者糖尿病 F) 骨、関節系；骨粗鬆症、変形性関節症などの疾患 G) 腎、泌尿、生殖器系；腎不全、前立腺肥大症と前立腺癌、子宮脱等 H) 血液系；高齢者の貧血 I) その他の器官系（老年各診療科目の対象となる疾病、障害について） 2. 1) 老年者の全身状態の把握の仕方 2) 高齢者機能評価法の理解と修得 3) 基本的な医療基本技術の修得---血圧や心電図のとり方 4) 老年者の検査値の読み方---血液、尿データおよび脳CT、胸部X-P、腹部X-Pなど 5) 主な医療機器とその取り扱い方--レスピレータ-、パルスオキシメータ-など 6) 高齢者で頻用される薬剤とその副作用 7) 施設ケアと在宅ケア----救急処置 8) タ-ミナルケアと死 3. A) 食生活と栄養 B) リハビリテーションと運動 C) 喫煙とアルコール D) 休養とストレス 	
【評価方法】 <p style="text-align: center;">筆記試験</p>	

【担当科目】 老人福祉特論	【担当者】 佐野 英司								
【開講期】 後期									
<p>【授業目標】</p> <p>前期の「老人福祉論」授業を受け、さらに、それまでに経験した2回にわたる介護福祉実習での経験を踏まえ、介護福祉士養成過程の後</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の人権を守るケアの在り方について学びます。 2. 自立とは何か、自立につながる援助とは何かを学びます。 3. 在宅福祉への取り組み方について学ぶとともに、地域社会との連携の意義と方法について学びます。 4. 家族やボランティアとの関わる意義と方法について学びます。 5. 施設運営の円滑化、他業種との連携の意義と方法について学びます。 6. 高齢者福祉労働の在り方について学びます。 									
<p>【参考図書および教材】</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">「すべての人にゆたかな老いを」</td> <td style="width: 50%;">(文理閣 松井一晃、児島珠理共著)</td> </tr> <tr> <td>「障害者の自立と発達保障」</td> <td>(全障研出版部 加藤直樹著)</td> </tr> <tr> <td>「グループホームケアのすすめ」</td> <td>(朝日カルチャーセンター)</td> </tr> <tr> <td>「グループホームからの出発」</td> <td>(中央法規 中澤 健著)</td> </tr> </table>		「すべての人にゆたかな老いを」	(文理閣 松井一晃、児島珠理共著)	「障害者の自立と発達保障」	(全障研出版部 加藤直樹著)	「グループホームケアのすすめ」	(朝日カルチャーセンター)	「グループホームからの出発」	(中央法規 中澤 健著)
「すべての人にゆたかな老いを」	(文理閣 松井一晃、児島珠理共著)								
「障害者の自立と発達保障」	(全障研出版部 加藤直樹著)								
「グループホームケアのすすめ」	(朝日カルチャーセンター)								
「グループホームからの出発」	(中央法規 中澤 健著)								
<p>【授業の進め方】</p> <p>第3期介護福祉実習、多くの学生が卒業後に就く介護福祉労働を意識し、理論と実践を常に結びつけ、受講者が自ら考え、学べるようにディスカッションもとり入れ進めます。</p>									
<p>【評価の方法】</p> <p>授業への参加の姿勢を重視し、レポートとともに総合点で評価します。</p>									

【授業科目名】 社会福祉制度政策論	【担当者】 鍾 家新																														
【開講期】 前期																															
<p>【授業目標】</p> <p>社会福祉政策は現代社会の産物である。本講義は①現代社会における社会福祉政策の成立・発展過程、理念、推進要因と機能、②日本の社会福祉諸制度の現状と問題点、③日本型福祉国家の特徴についての理解を深めることを目的とする。</p>																															
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>鍾家新著『日本型福祉国家と「十五年戦争」』ミネルヴァ書房、1998年。</p>																															
授 業 計 画																															
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">1. 現代社会と社会福祉制度政策</td> <td style="width: 20%; text-align: right;">(第1回)</td> </tr> <tr> <td>2. 社会福祉政策の理念としてのナショナル・ミニマム</td> <td style="text-align: right;">(第2回)</td> </tr> <tr> <td>3. 社会福祉政策の理念としての普遍主義</td> <td style="text-align: right;">(第3回)</td> </tr> <tr> <td>4. 社会福祉政策の理念としてのノーマライゼーション</td> <td style="text-align: right;">(第4回)</td> </tr> <tr> <td>5. 社会福祉政策の推進要因としての産業化</td> <td style="text-align: right;">(第5回)</td> </tr> <tr> <td>6. 社会福祉政策の推進要因としての現代戦争</td> <td style="text-align: right;">(第6回)</td> </tr> <tr> <td>7. 社会福祉政策の推進要因としての社会主義</td> <td style="text-align: right;">(第7回)</td> </tr> <tr> <td>8. 社会福祉政策の推進要因としての高齢化</td> <td style="text-align: right;">(第8回)</td> </tr> <tr> <td>9. 社会福祉政策の機能としての最低生活の制度的保障</td> <td style="text-align: right;">(第9回)</td> </tr> <tr> <td>10. 社会福祉政策の機能としての経済的安定</td> <td style="text-align: right;">(第10回)</td> </tr> <tr> <td>11. 社会福祉政策の機能としての所得の再分配</td> <td style="text-align: right;">(第11回)</td> </tr> <tr> <td>12. 社会福祉政策の充実とナショナリズムの問題</td> <td style="text-align: right;">(第12回)</td> </tr> <tr> <td>13. 日本の社会福祉諸制度の現状</td> <td style="text-align: right;">(第13回)</td> </tr> <tr> <td>14. 日本型福祉国家の特徴</td> <td style="text-align: right;">(第14回)</td> </tr> <tr> <td>15. 日本の社会福祉諸制度の問題点と課題</td> <td style="text-align: right;">(第15回)</td> </tr> </table>		1. 現代社会と社会福祉制度政策	(第1回)	2. 社会福祉政策の理念としてのナショナル・ミニマム	(第2回)	3. 社会福祉政策の理念としての普遍主義	(第3回)	4. 社会福祉政策の理念としてのノーマライゼーション	(第4回)	5. 社会福祉政策の推進要因としての産業化	(第5回)	6. 社会福祉政策の推進要因としての現代戦争	(第6回)	7. 社会福祉政策の推進要因としての社会主義	(第7回)	8. 社会福祉政策の推進要因としての高齢化	(第8回)	9. 社会福祉政策の機能としての最低生活の制度的保障	(第9回)	10. 社会福祉政策の機能としての経済的安定	(第10回)	11. 社会福祉政策の機能としての所得の再分配	(第11回)	12. 社会福祉政策の充実とナショナリズムの問題	(第12回)	13. 日本の社会福祉諸制度の現状	(第13回)	14. 日本型福祉国家の特徴	(第14回)	15. 日本の社会福祉諸制度の問題点と課題	(第15回)
1. 現代社会と社会福祉制度政策	(第1回)																														
2. 社会福祉政策の理念としてのナショナル・ミニマム	(第2回)																														
3. 社会福祉政策の理念としての普遍主義	(第3回)																														
4. 社会福祉政策の理念としてのノーマライゼーション	(第4回)																														
5. 社会福祉政策の推進要因としての産業化	(第5回)																														
6. 社会福祉政策の推進要因としての現代戦争	(第6回)																														
7. 社会福祉政策の推進要因としての社会主義	(第7回)																														
8. 社会福祉政策の推進要因としての高齢化	(第8回)																														
9. 社会福祉政策の機能としての最低生活の制度的保障	(第9回)																														
10. 社会福祉政策の機能としての経済的安定	(第10回)																														
11. 社会福祉政策の機能としての所得の再分配	(第11回)																														
12. 社会福祉政策の充実とナショナリズムの問題	(第12回)																														
13. 日本の社会福祉諸制度の現状	(第13回)																														
14. 日本型福祉国家の特徴	(第14回)																														
15. 日本の社会福祉諸制度の問題点と課題	(第15回)																														
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">試験と出席状況。</p>																															

【授業科目名】 障害福祉論	【担当者】 村田保太郎・尾島豊
【開講期】 後期	
【授業目標】 障害児・者問題の特質とその背景、諸概念の理解、障害児・者福祉に関わる法律や制度の概要など、専門援助者として関わる上で必要な考え方や知識を学ぶ。またノーマリゼーションの理解などを通して、障害児・者問題に対する問題意識を深める。	
【テキスト・参考書】 テキスト：大野智也『障害者は、今』岩波新書 参考書：手塚・加藤編『障害者福祉論』ミネルヴァ書房	
授 業 計 画	
<p>【障害児福祉論】 保育所および学校等における心身障害児の統合保育、発達支援、および対処する職員の研修などについて理解する。さらに障害児の実態と福祉サービスなどの知識と理解を深める。（担当 村田保太郎）</p> <p>【障害者福祉論】 障害者に関わる制度の概要を学ぶ。身体障害者、知的障害者、精神障害者の福祉サービス、さらに雇用や環境の面などの対策などについて理解する。講義は、学生報告やディスカッションを取り入れながら問題意識を深める形で進める。（担当 尾島豊）</p>	
【評価方法】 ①学期末レポート提出 ②講義への出席・参加状況	

【授業科目名】 社会福祉援助方法論	【担当者】 山口尚子
【開講期】 前期	
【授業目標】 介護福祉の実践にとって必要な社会福祉援助技術の意義と内容について理解を深めると共にその応用能力を向上させる。	
【テキスト・参考書】 授業の中で適宜紹介する。	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉援助技術と介護福祉士 2. 社会福祉援助技術の基本的枠組み 3. 直接援助技術 <ol style="list-style-type: none"> (1) 個別援助技術（ケースワーク）の意義・原則・過程など (2) 集団援助技術（グループワーク）の意義・原則・過程など 4. 間接援助技術 <ol style="list-style-type: none"> (1) 地域援助技術（コミュニティワーク）の意義・原則・過程など (2) その他（ソーシャルアドミニストレーション、ソーシャルアクションなど） 5. 関連援助技術（ネットワーク、ケアマネジメント、スーパービジョンなど） 6. 社会福祉援助技術における具体的手段 <ol style="list-style-type: none"> (1) 面接の構造と技法 (2) 記録の書き方 (3) 事例研究の方法 (4) 社会資源の活用 	
【評価方法】 学期末レポートによる。	

<p>【授業科目】 修了研究演習</p>	<p>【担当者】 佐野英司、大槻恵子、真保雅子、 村田保太郎、明度陽子、山口尚子、 堀江まゆみ、鍾 家新、中山正雄</p>
<p>【開講期】 前期 ・ 後期</p>	
<p>【授業の目標】</p> <p>学生各人が、老人福祉、障害者福祉等に関する関心に基づいて施設福祉・在宅福祉・地域福祉関連の研究テーマを設定し、専任教員の指導のもとに個別又は小グループで文献講読、資料の収集・分析、調査、観察などの方法により研究を進めます。</p> <p>なお、学年末には研究の成果を論文としてまとめ、さらに修了研究発表会で口頭発表を行います。</p>	
<p>【授業の進め方】</p> <p>4月から5月末まではオリエンテーション期間とし、研究テーマを考える期間とします。第一期介護福祉実習終了後に研究テーマの設定と指導担当教員を決定し、以後、担当教員指導のもと、個別のかつ集団的研究を進めます。</p>	
<p>【評価の方法】</p> <p>研究の過程および研究論文によって評価します。</p>	

学籍番号・

氏名・

〒187-8570 東京都小平市小川町1-830
教務課042(346)5619